

いどばた

すこやか広場 園庭開放で
行っている「お話し広場」
のお母さん同士の会話です。

Aさん

私の子は2歳になったばかりで、これまでは大人から言われる通りにしていたのに、この頃は「イヤ！」と言っていることを聞いてくれないのよ。「外に出掛けるから片付けて…」といつても「イヤ!」、靴下をはくとき、洋服を着替えるとき、歯磨きをするとき…生活のすべてといつていいほどひっかかるの。私にゆとりがある時は気長に待つこともできるけど、時間を出掛けなければならぬときなどは本当に困るわ。最後は叱りつけてしまつて、本人は泣いてしまつし、私も嫌な気分になつてしまつた。

Bさん

そうね、3歳半になる私の子も2歳の頃はAさんが話していたとおりの状態で本当に困つたし、イヤイヤもさせられたわ。でもこの頃つてなんでも自分で決めたいようなの。大体のことはできるだけ子どもに決めさせてあげても、どうしても譲れないことは、泣いてもきちんと言いつかせて、とすぐく手間がかかった覚えがあるわ。でも3歳を過ぎた頃から少しずつ聞き分けがよくなつて、困ることが少なくなつてきたように思うわ。本人は自分の思っていることを真剣に聞いてもらい、分かつてもらえるとそれだけでずいぶん落ち着くようなの。

Aさん

私の場合はもう一息なのね。先が見えてきて少し安心したわ。ありがとう。また話を聞いてね。



絵本と子育て

子どもは絵本が大好きですね。子どもが絵本と向き合うとき、その目は絵にひきつけられ描かれている世界に浸りきつていきます。子どもの心が豊かに満たされているのでしよう。読み手（お父さん、お母さん）もまた同様にその思いを共有するひとときを味わいます。子どもの目に励まされて、新しい世界が広がることでしょう。

子どもが思いのままにあそび、さまざまな直接体験をしていることもとても大切です。そうすることで、絵本の内容を読みとる力がいつそう増すのだと思えます。

子どもも大人も楽しんで気持ちをこめて読みましょう。（一冊の絵本を読むのにかかる時間はわずか5分です。）お父さんお母さんの語りかける声に、子どもの気持ちは満たされて、温かい心の通じ合いが生まれます。そして、これからの成長に欠かすことのできない、人間関係の深い信頼感が育まれることでしょう。

子育て支援担当 石川克子



絵本の紹介コーナー

「わたしとあそんで」
女の子がいろいろな生き物に向かつて「わたしとあそんで」と声をかけますが、声をかけられるとみんな逃げていってしまいます。女の子はひとりであそんでいました。が、じーっと、じーっとしているところ…

マリイ・ホール・エッツ
ぶん/え
よだ じゅんいち
やく

福音館書店

「もりのなか」
「ぼく」が森の中へさんぽに出かけると、つぎから次へと森の動物たちがついてきます。みんなでかくれんぼうをしていっていると、そのあそびとともに動物たちはいなくなつてしまいました。そして、お父さんが「ぼく」を探しにやってきました。

マリイ・ホール・エッツ
まさき るりこ

文/絵
福音館書店